

競技上の注意事項(お願い)

《夏季テニス選手権大会の注意事項》

1. 個人戦の受付は、各会場において、開始式前までに出場選手本人が行ってください。大会に参加できない生徒が出た場合の措置については、棄権とし、変わりの選手が出る時にはオープンとします。
2. 試合球は、ダンロップフォート(イエロー)を使用します。出場する選手が準備してください。若番(ドロー番号の小さい方の選手)が試合開始時に開封し、試合球として使用します。対戦後、勝者が未開封のボールを持ち帰り、次の対戦に使用してください。開封されたボールは敗者が持ち帰ってください。
3. 服装についてはテニスウェアとし、全国高体連テニス専門部服装規定に則るものとします。また、ゼッケン着用による学校名の表示を励行します。
4. 試合は、可能な限りオーダー・オブ・プレー表の指示により進行します。控えの選手は、オーダー・オブ・プレー表に注意して、前の試合終了後直ちにコートに入り試合を始めてください。
5. 審判については、各コート1巡目の対戦はセルフジャッジ方式で行い、2巡目以降は、原則として当該コートの前の試合の敗者によるSCU(ソロチェアアンパイア)方式で行います。選手は、判定のコールを相手とSCUにはっきりと分かる声とハンドシグナルを使って、ボールの着地後、速やかに行ってください。事実問題の最終裁定はSCUです。
6. 全ての対戦を1セットマッチで行います。6ゲームズオールでITF方式タイブレークを採用します。
 - a. ダブルスは、アドバンテージ有りの方式を採用します。
 - b. シングルスは、ノーアドバンテージ方式を採用します。デュースになった場合、次の1ポイントを取得した方がゲームを取得する方式です。レシーバーはコートの右サイドか左サイドのどちらかでレシーブするかを速やかに選択しなければなりません。また、一度選択したらプレーするサイドを変更することはできません。審判のコールは「デュース。ディサイディング ポイント。レシーバーズ チョイス」です。ノーアドバンテージ方式を採用し忘れて試合を進め、誤りに気付いた際の対処は以下の通りです。
 - b-1. ノーアドバンテージ方式を採用しないまま試合を進めてゲームが成立した場合、気付く前に成立したゲームはやり直しや変更等をせずに有効となります。
 - b-2. 誤りに気付いたときにデュースであった場合、すぐにノーアドバンテージ方式に切り換える。
 - b-3. デュースの後に1ポイントプレーした時点で誤りに気付いた場合、その結果は有効となり、そのゲームは終了したものとします。
7. 全ての試合でノーレットルールを採用します。サービスがネットに触れたとしてもインプレーとする方式です。
 - a. 選手がレットだと思ってプレーを止めた場合、その選手の失点となります。
 - b. 選手が誤ってレットのコールをした場合、1回目から失点となります。
 - c. 双方の選手等が気付かず、ノーレット方式を採用しないまま試合を進めてポイントが成立した場合、気付く前に成立したポイントはやり直しや変更等をせずに有効となります。
 - d. SCUが誤ってレットをコールした場合、ファーストサーブ、セカンドサーブに関係なくポイントレット(ファーストサービスからの打ち直し)となります。
 - e. ダブルスでは、レシーバー側の決められたサイドの選手がレシーブをしなければなりません。
※「ショートセット方式」(4ゲームでの試合)でのダブルスの場合は、ネットインしたボールをレシーバー側のどちらの選手でも返球できますが、ショートセット方式の採用予定はありません。
8. ベンチは本部に近い方を若番が使用します。
9. スコアボードは、コート後方のサイドライン延長線上の外側に置いてください。スコアボードは、上の段または審判台側または左側を若番が使用します。スコアの変更は、エンドチェンジの際に選手が行います。
10. 試合前のウォームアップは原則としてサーブ4本のみとします。ただし、上位戦は3分間練習を行うことがあります。3分間練習の際は、サーブから始めてください。
11. 25秒ルール・90秒ルールを厳守してください。
12. ボールパーソンは、各コート1名認めます。ボールパーソンは、原則としてテニスウェアを着用してください。(全国大会では、ボールパーソンが認められるのはシングルスのみです)
13. 体力の消耗によるMTO(メディカルタイムアウト)はありません。体力の消耗により遅延が生じた場合は、大会本部に速やかに伝えてください。その際、相手への1ゲーム譲渡につき2分程度のセルフケア(ダブルスであればペアのサポートは可能)の時間を、本部の判断により認めることがあります。(熊本県高体連の特別ルールです。他の大会ではこのような規定はありません)ただし、選手が危険な状態であると大会本部が判断した場合は、該当選手の途中棄権とします。

14. トイレトブレイクはありません。緊急にトイレに行かなければならない状況になった場合は、大会本部に速やかに伝えてください。その際、相手への1ゲーム譲渡につき2分程度の時間を、本部の判断により認めることがあります。(熊本県高体連の特別ルールです。他の大会ではこのような規定はありません)
15. タオルについては、コート後方に置くことを認めます。(熊本県高体連の特別ルールです。九州大会および全国大会においては、大会本部が準備するカゴや椅子に置くこととなっています。)
16. 荒天や試合の遅延などによる試合の中断、コート・会場の変更を行うことがあります。高体連テニス専門部ホームページからの情報にご留意いただくとともに、大会本部の指示に従ってください。雨天の場合も出場選手は一旦試合会場にて受付を行い、以後の日程の連絡を受け取ることを原則としています。